

アルミ缶 リサイクル ニュース

July
7
2024

Vol. 168

CAN
to
CAN



アルミ缶リサイクル協会
Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<https://www.alumi-can.or.jp>

第235回理事会・第53回定時総会開催 2024年度事業活動計画等承認される

当協会は、6月21日(金)に東京都千代田区 如水会館(ペガサスの間)にて第235回理事会及び第53回定時総会を開催し、2024年度の事業計画、収支予算等が承認されました。今年度の事業計画については本紙をご参照下さい。



第235回理事会・第53回定時総会の様子



2023年(令和5年)度 飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用率)を発表

当協会は、6月21日(金)に記者会見を行い、2023年(令和5年)度の飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用率)とCAN to CAN率(国内で再生利用されたアルミ缶のうち、缶材へ利用された割合)を発表しました。

当日は25名のアルミ業界関係、環境関係の報道機関の皆様にお集まり頂き、石原理事長、神崎副理事長、山田企画委員長、事務局から以下の説明を致しました。

2023年度のリサイクル率は、前年度より3.6ポイント上昇し97.5%となり、目標の92%以上が維持されました。一方CAN to CAN率は73.8%(前年度70.9%)となりました。製造業界の資源循環とカーボンニュートラルを意識した調達強化により率としては増加しました。但し、2023年度も約5.9万ト(前年度約5.8万ト)のUBCが輸出(主に韓国)されており、これは国内消費量の19%に相当します。

リサイクル率97.5%



記者発表風景 (左)神崎副理事長、(中央)石原理事長、(右)山田企画委員長



リサイクル率

※1 再生利用重量(306,742ト)

国内消費重量(314,645ト)

※1 輸出分含む

= 97.5%
(2022年度93.9%)



CAN to CAN 率

缶材向け重量(182,897ト)

国内再生利用重量(247,851ト)

= 73.8%
(2022年度70.9%)



2024年度 アルミ缶リサイクル協会 事業活動計画

1. 概要

2023年の飲料用アルミ缶の国内需要量は前年比97.4%の約210億缶と推定されますが、10年連続で200億缶の大台は維持されました。昨年はアルコールの飲食店需要が回復したものの、増税となったビール類の新ジャンルが大きく落ち込み、結果として業界紙推定で99%の前年割れとなった模様です。ビール類の缶需要は、家飲みの減少や缶化率の高い新ジャンルの不振により前年比94%となりましたが、RTD缶は10月の酒税改定で価格優位性が維持されたために前年比102%と堅調に推移したとされており、当協会のアルコール向け缶数ベースの推定では98.3%となりました。一方、容器入り清涼飲料の国内生産量は、人流回復と夏場の好天により果実、コーヒー、MW等が好調で101.9%となりましたが、アルミ缶需要はコーヒー向けボトル缶が製品値上げ等の影響で95.3%と大きく落ち込み、缶数ベースで97.0%で着地したと推定します。

2023年度のリサイクル率は、前年度の93.9%から3.6ポイント上昇して97.5%となりました。分母となる国内消費重量は、5.6億缶もの需要減により前年比で約1.2万トン減少しました。一方、輸出はタイ向けが大きく減少しましたが、韓国向けが前年に比べ0.5万トン増加したため輸出量全体で約400トンの微増となりました。また国内再生利用重量は製造業界の再生地金の調達推進により約400トンの微減に留まったため、国内再生利用重量と輸出量からなる分子全体ではほぼ前年並みの数値となりました。この結果、分子が変わらず分母が減少したことによりリサイクル率が大きく向上しました。

尚、アルミ缶の強みであるCAN to CAN率（水平リサイクル率）は、前年比2.9ポイント増の73.8%となり、CAN to CANへの取り組みは着実に向上しています。この結果に安堵せず、引き続き中期的取り組みとして今一步高いレベルにするための方策を協会内外で協議していく所存です。

2023年はSOT缶にて胴部や底部の薄肉化による軽量化が進み、前年よりも平均缶重量が0.12g軽くなりリデュース率も6.8%へと一気に上昇し、2025年目標である6.0%以上は3年連続で達成されました。現在もビール缶等で軽量化は進められており、引き続き関係者が一丸となって取り組み、更に高みを目指すことを期待します。

貿易統計によるUBCの輸出量は、タイ向けが減少したものの韓国向けが地政学的影響により増加し、ほぼ前年並みの6.6万トン*になりました。しかし貿易統計上でUBC品目ではないその他のものとしてシュレドされたUBCが一定量輸出されていると推察され、UBC輸出量の実態は6.6万トン以上にのぼることは間違いないと思われます。また2024年には韓国で新たなUBC一貫処理施設が稼働の予定であり、輸出量は今後更に増加する懸念があります。UBCの輸出動向には引き続き注意が必要です。 *：貿易統計値（組成率未反映）

実績推移

1)リサイクル率とリデュース率

	2025年度目標	2022年度	2023年度	対前年増減
リサイクル率	92.0%以上	93.9%	97.5%	+3.6ポイント
リデュース率	6.0%以上	6.1%	6.8%	+0.7ポイント
	16.00g以下	15.98g	15.86g	▲0.12g

2. 基本方針

1)アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

- (1)アルミ缶回収ルート of 整備・支援を通じて、リサイクル活動の活性化に取り組みます
- (2)広報・啓発活動を行います
- (3)調査・情報提供活動を行います
- (4)CO₂排出削減と国内資源循環の強化を図るため、リサイクル率の安定化とCAN to CAN率の向上に取り組みます

2)3R推進団体連絡会の一員として積極的に3R活動に取り組みます

<目標>

- (1)安定的にリサイクル率92.0%以上を維持します
- (2)2025年までに2004年比で6.0%以上の軽量化を目指します
- (3)アルミ缶回収協力者推薦数は、学校・一般とも前年度以上を目指します

3. 2024年度 事業活動計画の内容

1)アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

(1)アルミ缶回収ルート of 整備・支援

事業者責任としてアルミ缶回収率を上げるために関係者との連携、協働の推進を引き続き行います。

- ①資源としてのアルミ缶の理解度向上
 - ・アルミニウムの素材としての良さを理解してもらい、リサイクルへの機運を高めるための活動を行います。
- ②当協会プレゼンス向上を目的に官庁や関連団体への訪問・支援、自治体、消費者団体との交流を積極的に行います。
 - ・当協会の活動内容について理解度が低いため、官庁や自治体と定期的な会合や広報活動を行い理解度向上を図ります。
 - ・リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催の「3R推進功労者表彰」の候補者推薦を行います。
- ③アルミ缶回収表彰制度の認知度向上
 - ・「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」、「アルミ缶一般回収協力者表彰」、及び「優秀回収拠点表彰」制度の認知度向上を目的に、学校・自治体、回収拠点、社会福祉協議会等への表彰制度PRを継続します。
 - ・都道府県別の登録回収拠点の中身を見直し、アルミ缶回収協力者表彰への推薦が出やすい環境を整備します。

(2)広報・啓発活動の推進

アルミ缶及び回収活動への理解を深めてもらうための広報・啓発活動を行い、情報のアップデートに努めます。

- ①若年層への環境教育としての広報・啓発活動
 - ・環境教育への協力、支援として小・中学校向けにパンフレット/小冊子、DVD、ポスター等の配布、再生地金サンプル等の教材を貸し出します。
 - ・旅行会社等に当協会活動をPRし、中学生の修学旅行時等の来協学習の申し込みが来やすい環境を整備します。

2)アルミ缶回収表彰(優秀賞件数)

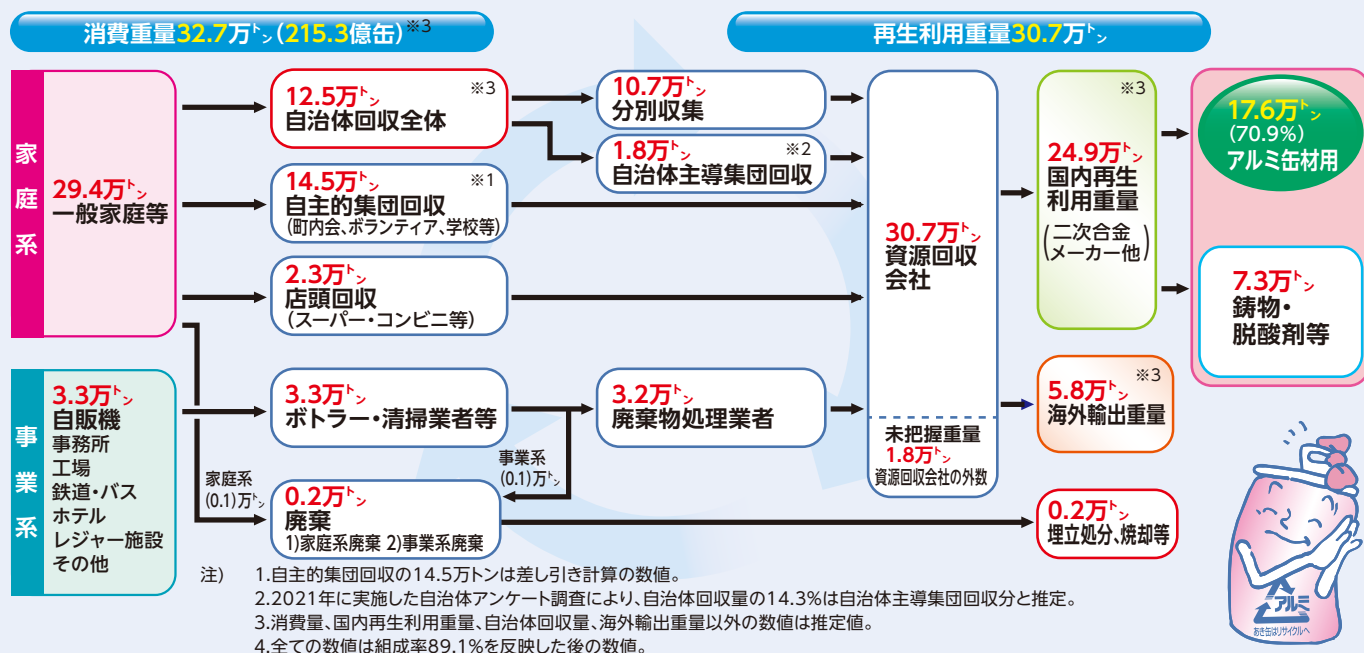
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標
小・中学校	44件	41件	43件	45件
一般	66件	62件	65件	67件

- ・小・中学校等への出前教育を積極的に実施します。
- ②自治体・消費者への広報・啓発活動
 - ・自治体や各消費者団体主催の展示会、自治体講演会への参加、各種書籍・雑誌への寄稿等を行います。
 - ・エコプロ2024が開催される場合には参加します。
 - ・タブのみ回収の防止活動については引き続き正確な情報提供を行います。(歴史的な経緯と怪我の危険性)
 - ・ホームページにてタイムリーな情報提供を行うと共に、協会やアルミ缶回収活動のPRを行います。
- ③マスコミ関係者や支援団体への広報・啓発活動
 - ・定期的に報道発表を実施します。(6月:需要予測、単年度事業計画、リサイクル率、リデュース率、他)
 - ・リサイクル施設の見学研修会を実施します。(10月)
 - ・広報紙「リサイクルニュース」(4回/年発行)を発行、配付します。
- (3) 調査・情報提供活動の推進
 - ・2023年度「アルミ缶リサイクル率」(「CAN to CAN率」含む)、2023年度「アルミ缶リデュース率」、2022年度「アルミ缶再生利用フロー」を調査・公表します。
 - ・日本アルミニウム協会等と連携し、タイムリーな調査分析・情報発信に努めます。

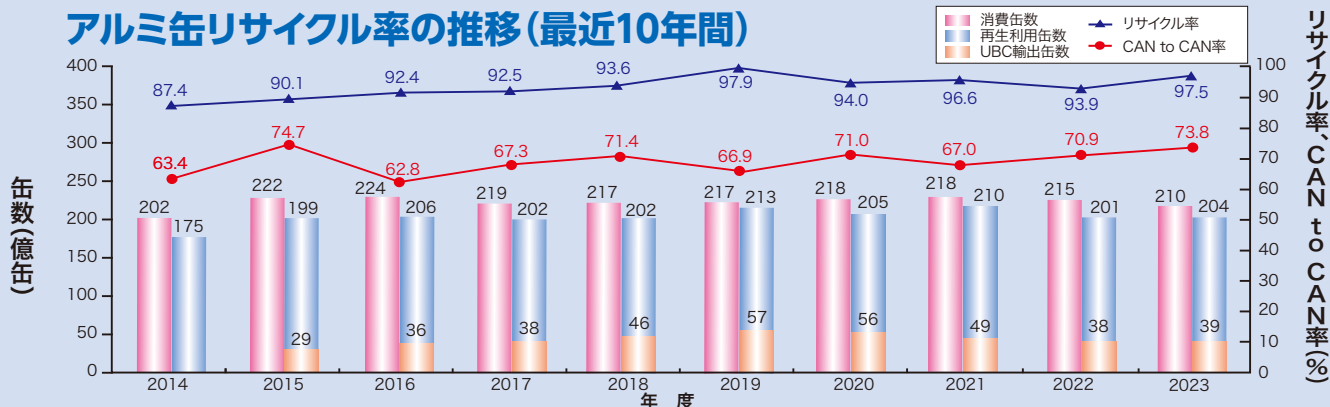
- ・アルミ缶輸出入数量、及び世界のリサイクル率について、データ精度の向上に努めます。
- (4) 当協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)活動の推進
 - ・当協会が当面する課題や対応を企画委員会と各WGで対応していきます。特にリサイクルフロー調査WG、3R推進WG、広報WGでは、CAN to CAN率向上のための施策、自主行動計画のフォローアップ、効率的・効果的な広報活動の推進に取り組みます。
- 2) 3R推進団体連絡会メンバーとしての活動
 - 「自主行動計画2025」に取り組みます。
- (1) 事業者自ら実践する3R推進計画の推進
 - ・リデュース率とリサイクル率の目標達成に向け取り組みます。
- (2) 普及・啓発活動の推進
 - ・3R推進フォーラム、3R交流セミナー意見交換会等により市民、行政との意思疎通を図ります。
 - ・市民リーダー育成のための支援、エコプロへの参加、リサイクル冊子の作成・配布等を行います。
- (3) 今後の中長期活動計画における活動
 - ・自主行動計画2025に沿って、事業活動に参画します。

2022年度 アルミ缶再生利用フロー

アルミ缶消費重量は32.7万トン。再生利用重量は30.7万トン(国内24.9万トン+輸出5.8万トン)。リサイクル率は海外輸出を入れて93.9% CAN to CAN率は70.9%



アルミ缶リサイクル率の推移(最近10年間)



日本の飲料用アルミニウム缶需要量 (1月~12月)

単位：億缶

液種別 国産缶 出荷荷量 A	暦年	2022年実績		2023年実績		2024年予測	
			前年比 %		前年比 %		前年比 %
ビール (発泡酒・新分野含む)	ビール	91.2	96.9	88.0	96.5	87.5	99.4
	以外の飲料	50.8	98.6	51.6	101.6	52.5	101.7
	計	69.6	102.1	67.5	97.0	67.5	100.0
	小計	120.4	100.6	119.1	98.9	120.0	100.8
空缶輸入量 B		211.6	99.0	207.1	97.9	207.5	100.2
	(内ボトル缶数量)	(23.2)	104.5	(21.9)	94.4	(22.0)	100.5
実缶輸入量 C		0.6	66.7	0.5	83.3	0.5	100.0
実缶輸出量 D (空缶輸出含む)		4.3	104.9	4.9	114.0	4.9	100.0
国内需要量 合計 (A+B+C-D)		1.2	120.0	2.8	233.3	2.8	100.0
国内需要量 合計 (A+B+C-D)		215.3	98.9	209.7	97.4	210.1	100.2

協会からのお知らせ

● アルミカップにリサイクルのマークが付きます。

このマークが付いたアルミカップはアルミ缶といっしょにリサイクルの処理ができます。金属のカップにはスチール、ステンレスや錫製があるので注意してください。

このマークを使用したい方は
アルミ缶リサイクル協会のホームページへ
<https://www.alumi-can.or.jp>



このマークがついたアルミカップは
アルミ缶と一緒にリサイクルできます！

● 協会のホームページが新しくなります。

<https://www.alumi-can.or.jp> に変わります。

SSL対応でセキュリティが強化されました。
メタバース空間でアルミ缶のリサイクルの流れを見ることが出来ます。
参加してみてください。



協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

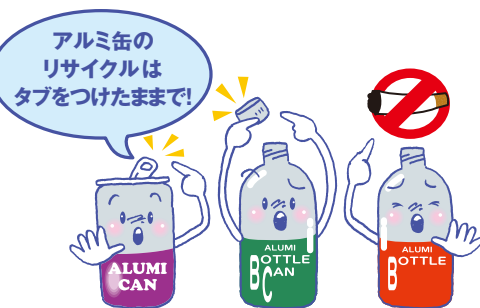
アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。
※自治体によってはキャップだけを別に回収しているケースがありますので、お住いの自治体の要領に従ってください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

● 今年も暑くなりそうです。熱中症に気を付けて飲料で水分を補給して、飲み終わった容器はリサイクルのためにルールに従って出してください。

アルミ缶リサイクルニュース第168号

発行日 2024年7月22日
発行人 稲林 芳人
編集人 中島 計
発行所 アルミ缶リサイクル協会